

# かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 6 No 1

5 4 号

平成10年 1月 1日

発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu.k/>

## 謹賀新年



今年もよろしく、  
お願い致します。

### 新しい年に向けて

院長

皆さん、去年はどんな一年だったでしょうか。さまざまな出来事がありました。経済面では、証券会社や銀行の破綻もあり、景気の回復の兆しが見えてきません。

健康の方は、いかがだったでしょうか。あまり病気になるなかった子もいれば、長く咳や熱が続いたり、初めてのひきつけで、おおあわてしたお母さんたちもいたことでしょう。

いつの間にか、当院も2月20日で、5年を迎えます。いつも新聞に“漫然と同じことの繰り返しでは、進歩がありません。”と書いています。病院の方ではスタッフを増強しましたが、サービス(?)の方はいかがだったでしょうか。他には、育児雑誌(私の赤ちゃん、ひよこクラブ等)から依頼があり書いたこと、いくつかの雑誌でHOMEPAGEの紹介もされました。HOMEPAGEのアクセス数が20,000

### 1月のお知らせ

- ・ 1歳6カ月健診の休診

1月20日(火)は、14:00～16:30まで休診

- ・ 石名坂急病診療所当番

1月18日(日)は当番で、石名坂にいます。急病の場合には受診して下さい。

人を超えました。個人的なところでは、長年の夢だったスキューバダイビングのライセンスを取得しました。

今後も、毎年一つづつ新しいことに挑戦していきたいと思っています。さて今年は何が出来るか、

今考えているところです。お母さんたちもこどもたちの健康のため、何か一つ新しいことに挑戦することもよいかもしれません。



### 新型インフルエンザについて

院長

香港での新型インフルエンザが話題になっています。このウイルスは、H5N1と呼ばれ人(人間)での感染はありませんでした。インフルエンザは、鶏や豚でも感染し流行を起こします。従来、鶏から人への直接の感染は、有り得ないと考えられていました。今回の問題の大きな点は、鶏から人へ感染したのが、人から人への感染は起こるのかです。インフルエンザの怖いところは、伝染力が強い事、重症化しやすいこと、治療法が無いということです。香港では重症化(死亡者が出現)が問題となっていますが、流行の規模はとて小さいようです。感染した人が限られれば、日本に入ってくる確率も低くなります。新聞やテレビなどで新型のインフルエンザについて様々なことが言われていますが、現在の状況でこの冬日本で新型が大流行ということはなさそうです。しかし流行すれば誰も免役はなく、重症化の程度は高くなると推測されます。ワクチン製造にも半年以上はかかる見込みです。

もちろん従来型のインフルエンザも怖いものです。去年は施設などで、抵抗力が落ちた老人の問題が大きくクローズアップされました。従来型のインフルエンザでも流行の規模によっては大きな問題を引き起こします。しかしインフルエンザに対する治療法はなく、対症療法のみです。現在はあまり見られていませんが、仙台でもA香港型が検出されました。予防の方法の一つにワクチンがありますが、それ以外には規則正しい生活、外出後の手洗いやうがいを励行し、栄養豊かな食生活を心掛けましょう。

### 年賀状ありがとうございました

今年も多く年賀状を頂きありがとうございました。本来は御返事を差し上げるところですが、この場を借りてお礼を申し上げます。

院長・スタッフ一同

## スタッフから一言

## あけまして おめでとう ございます

今年は、自分が育児で経験したことを生かすことが出来るように、努めたいと思います。 中 米

今年は、いよいよ飛び立つときがきました。1日1日を大切に過ごしていきたいと思います。 かつう

今年は何かと忙しい1年になりそう…。マイペースでがんばります。どうぞよろしくお願いいたします。 三 浦

今年は私も新米ママになります。皆さんにとっても、よい年でありますように…。PS：高木から荒明（あらあき）になりました。よろしくお祈りします！ 荒 明

かわむらこどもクリニックに来て、はや3カ月。今だ慣れない点やぎこちなさを感じて少なさけない私ですが、今年は影の努力をおしまずレベルアップを目指そうと思っています。98年もよろしくお願いいたします。 明 石

## 読者の広場

今年1年もまたこのコーナーを盛り上げていきましょう。それには、クリニックNEWSを読んでいるお母さんたちにかかっています。昨年も多くの投書ありがとうございました。ことしも、よろしくお願いいたします。

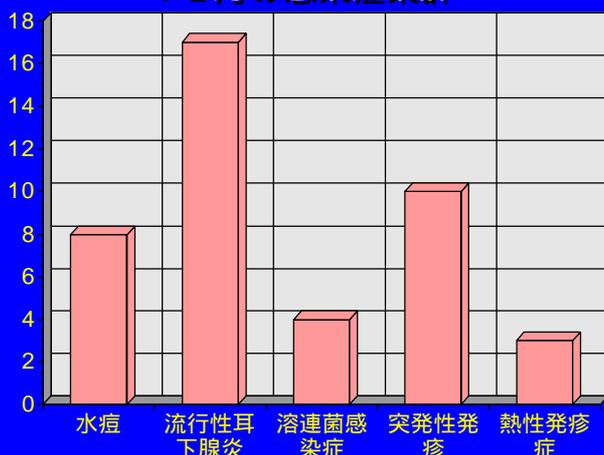
宮城野区鶴ヶ谷のNさんから投書を頂きました。便箋4ページにもわたり、考えさせられる部分も有るので、かいつまんで紹介したいと思います。Nさんは現在妊娠中ですが、産婦人科の先生（もちろん近隣の先生ではなく、病院です）が信頼できない旨を相談され、「患者と医師の間で最も大切なものは信頼感。思いきって変えてみる勇気を持つことも必要」と、アドバイスしたところから始まりました。投書の中で、夜間に出血が見られ電話したところ、冷たくされた経緯を説明されていました。その後他の病院の対応に不満を持ちましたが、現在は信頼できる先生を見つけ安心をしているというものです。そして最後に「2人目も無事に産まれたら、かわむら先生のところでみてもらうつもりでいまーす！私の個人的判断で、病院の優劣をつけるつもりはありませんが、先生に報告しておきたくて、病院名まで出したことを、お許し下さい」。確かに病院と患者さんとの間の信頼関係をつくっていくことは簡単なものではありません。医師だけでなく、事務や看護スタッフ全てが関係しているものなのです。病気が同じであれば病院によって治療法はあまり変わりませんし、薬も同じようなものをもらうのです。薬袋の中に、**安心を持っていくことが大切です**。咳や熱が長く続けば誰でも心配になります。その不安を直接ぶつけることが出来るような病院が、良い病院だと思っています。このようなアドバイスの報告をもらえるということは、ありがたいことだと思っています。そんな病院を目指しています。

信頼関係の確立や不安・心配を無くすための集まり、「**おかあさんクラブ**」の会員を募集しています。医師やスタッフが、患者さんのお母さんたちと同じ立場で、いろいろなことを行うことが目的です。「**もっと先生の話を知りたい**」、「**医学の知識を得たい**」、「**普段の悩みを聞いてもらいたい**」等何をやるのかも決めていません。申し込みも少しずつ増えてきて現在約10名ほどです。「先生とカラオケできるになら入ってもいい」と言ってお母さんもいました。資格などにも必要ありません。何をやるかはこれから決めることです。みんなで「**おかあさんクラブ**」を作っていきましょう。

## 「すこやかさん こんにちは」放送予定

今回の院長の担当は、**1月24日(土)「子どもの病気 うそ？ほんと？」**です。東北放送で、10:00～10:30 予定です。病気、症状や対応についての誤解を解説しています。興味のある方はご覧ください。

## 12月の感染症集計



流行性耳下腺炎は相変わらず多くみられますが、ピークは通り過ぎたようです。県内ではまだ減少傾向はなく、溶連菌感染症、水痘も増加傾向です。インフルエンザはまだほとんど無く、仙台市内でウイルスが分離されたのはわずか1～2例程度です。しかしインフルエンザ様の症状の風邪は、ぼちぼち見られています。

## 編集後記

昨年からの比較的落ち着いた状況が続いています。正月はのんびりでき、少し黒くなり過ぎたと、反省しています。この充電で、この冬を乗りきりたいと思います。

